

＜秋まき小麦の栽培＞

1 追肥について

幼穂形成期、止葉期の窒素施肥量は起生期の茎数に応じ、下表のとおりです。

ただし、倒伏の危険がある茎数の場合は追肥を控えましょう。

茎数が倒伏の危険を大きく超える時は、次の項目にある倒伏軽減剤の使用を検討しましょう。

起生期の茎数(本/㎡)	起生期	幼穂形成期	止葉期
1,000 本/㎡以上	0 ^(注)	6	4
800～1,000 本/㎡	2	4	
800 本/㎡未満	6	4	

注) 幼穂形成期前に葉色が急に褪めたら、その時点で追肥する。

図1 窒素分施肥時期と効果

項目	起生期 (4月中旬)	幼穂期 (5月上旬)	止葉期 (5月下旬)	出穂期 (6月上旬)
穂数				
1穂粒数				
千粒重				

2 倒伏軽減剤について

倒伏の危険がある場合は早めに対応しましょう。幼穂形成期から散布が可能です。

薬剤	使用時期	10a 当り使用量	使用回数	注意事項
サイコセルPRO	幼穂形成期	150～200mL	1	水 100L
	出穂前 20～10 日	200～300mL	1	水 100L、草丈 40～60cm
エスレール10	止葉期～出穂始期	200～333mL	1	水 100L
カルタイムフロアブル	止葉期～出穂 5 日前	150mL	1	水 100L

3 雑草と除草剤について

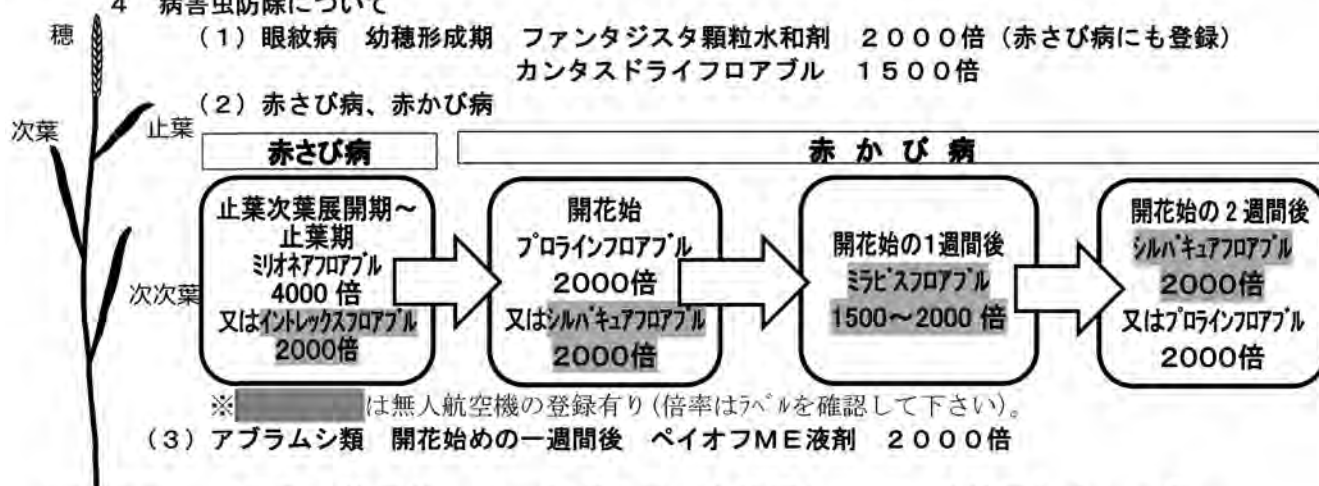
除草剤	主な対象雑草	使用時期	10a 当り使用量	使用回数	注意事項
エコパートフロアブル	シロサ [※] 、タテ [※] 類、ハコベ [※]	雑草発生始期 (止葉抽出前まで) (収穫 45 日前まで)	50～75mL	2	展着剤は加用しない、薬害の恐れがあるので、小麦止葉抽出前までに散布する。
バサグラン液剤	タテ [※] 類、ハコベ [※] 、ナスナ、スカシゴボウ等	麦の幼穂形成期 (春生えのみ) (収穫 45 日前まで)	100～150mL	1	散布後の降雨は効果が劣るので、好天の続く見込みの時期に散布する。
MCP ソーダ塩	シロサ [※] 、ハコベ [※] 、ナスナ、スカシゴボウ等	麦の幼穂形成期 (収穫 45 日前まで)	300g	1	日中の気温が 20℃以上の好天日を選び散布する。
ハーモニーDF ^(注)	シロサ [※] 、タテ [※] 類、ハコベ [※] 等 ^(注)	麦の幼穂形成期 (収穫 45 日前まで)	7.5～10g	1	イヌカミツレに有効。使用後は必ず散布器具を専用の洗浄剤でよく洗浄する。

注) ハーモニーのキシキシ類は 10a 当たり使用量 3～5g。

4 病害虫防除について

(1) 眼紋病 幼穂形成期 ファンタジスタ顆粒水和剤 2000 倍 (赤さび病にも登録)
カンタスドライフロアブル 1500 倍

(2) 赤さび病、赤かび病



小麦の葉位 ※農薬の使用前には、必ずラベルを確認し、正しく使用しましょう。